



きぬた

NPO 法人埼玉県キャンプ協会, 〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎 3551 浦和大学 中島研究室
http://saitama-camping.jp/ E-mail saitama@camping.or.jp TEL 080-8729-0349(事務局専用)

きぬた 140 号

- 1 OPINION
「キャンプを用いて学ぶこと」
- 2 特別寄稿
・「王様とミルクのプール」
- 3 NPO 法人埼玉県キャンプ協会の
令和 2 年度総会について



会員から寄せられたキャンプに関する意見や感想を紹介し
ます。会員が肌で感じた感想や意見は、「キャンプの今」を映す鏡
になり、「キャンプの明日」を探る窓になることでしょう。きぬた
は、会員とともに、キャンプの今をとらえ、キャンプの明日を考え
ていきたいと思えます。

「キャンプを用いて学ぶこと」

キャンプの中には、自然体験や生活体験、仲間との共同作業など多くの
学べるポイントがあります。キャンプを企画する者の一人として、キャン
パーにどんなことを学んで欲しいのか計画することは醍醐味の一つであ
り、キャンプを実施する上で根幹になってくると思います。特に私が重視
していることは、キャンプでの仲間との共同作業を日常生活あるいは社会
生活にどのようにして生かしているかです。

キャンプの中には様々な共同作業があります。野外炊事では食材を切る
係、火を起こす係、飯盒で炊飯する係など、それぞれ役割分担をすること
で 1 つの食事を作っていきます。またアクティビティの種類によっては、
仲間と協力や相談をすることで成果を出せるものがあります。このよう
な共同作業は、具体的な作業は異なりますが日常生活あるいは社会生活に
たくさんあるはずで

キャンプと普段の生活と共通することは、仲間がいることだと私は思っ
ています。日常生活では家族や友達、クラスメイトなど、社会生活では
仕事の上司や先輩、後輩などの仲間と囲まれながら共同作業をすること
が求められます。キャンプは仕事とは異なりますが、野外という環境を使
って間接的あるいは疑似的に日常生活、社会生活の共同作業を体験する
ことができます。

しかし、間接的、疑似的な体験であるがゆえに日常生活あるいは社会生
活に生かす難しさがあります。そこで私が重視しているのは「言葉」で
す。キャンプの中で様々な体験をした後に、日常生活あるいは社会生活に
結び付けるような言葉をかけることで、キャンパーにつながりを気づい
てもらうようにしています。もちろん全てのキャンパーが日常生活・社会
生活とのつながりを納得できるとは思っていません。しかし、1 人でも多
くのキャンパーに学びを伝えたいので、体験の後の言葉はとても気をいま
す。

これからもキャンプの中の体験をベースに言葉かけすることで、より多
くのキャンパーに対して学びを伝えていけるようになっていきたいです。

(NPO 埼玉県キャンプ協会会員 中島悠介)

通常総会の開催について

NPO 法人埼玉県キャンプ協会
では、令和 2 年度通常社員総会を以
下のよう計画しています。

期日 2020 年 5 月 30 日(土)
時間、場所については、決まり次第
NPO 社員(正会員)の皆様にご連絡
いたします。

(2 面に関連記事あり)



会員の「OPINION」を募集

冬には、どんなキャンプをしました
か? キャンプを通じてどんなことを考
えましたか? あなたの体験や意見・感
想を、きぬたで紹介してみませんか。

「OPINION」では、あなたの投稿を
募集しています。以下の要領で、あな
たの OPINION を送ってください。

寄稿方法: 電子メールに限る。

寄稿先: saitama@camping.or.jp

書 式: 800 字程度(日本語に限る)

添 付: 寄稿内容に関連する数点
の写真を添付してください。



2. 特別寄稿



暖冬で雪の少ない冬、また新型コロナウイルスの感染拡大にゆれた冬。多くのイベントや集会が中止になるなど、私たちの野外活動環境も大きな影響を受けた冬でした。そんな中、当協会に一通の投稿が寄せられました。私たちのまわりにあるいろいろな心配事を「他人事」とせず、自分にできることを考え行動することが大切、そんな風に気づかせてくれる投稿です。

王様とミルクのプール

あるところにわがままな王様がいました。ある日王様はお城の庭にあるプールをミルクでいっぱいになりたいと思立ち、夕暮れ時に「明日の朝までに各自バケツ 1 杯のミルクをプールに入れよ」というおふれを出しました。これに従わなければ大変なことになってしまう民たちは、夜の間にバケツ 1 杯のミルクを何とかしてプールに入れなければならなくなってしまったのです。

翌朝王様は目を覚まし、ワクワクしながら庭に行ってみると、何とプールはミルクではなく水でいっぱいになっていたのです。怒った王様は民の 1 人を捕まえて問い詰めました。すると民は小さな声でこう答えました。「自分1人くらいなら(水を入れても)大丈夫だと思った」

この冬は例年と比べるとかなり雪の少ないシーズンでしたね。ゲレンデから見える景色も、いつもより茶色い感じがありました。暖冬でオープンが遅れたり、早めにクローズしたりしたスキー場も少なくなかったとのこと、「温暖化」を実感するとともに、来年はどうなるのか心配になってしまいました。

2006 年、地球温暖化や気候変動について元米国副大統領アル・ゴア氏は「不都合な真実」で人間活動が CO₂ などの温室効果ガスを増大させていることに警鐘を鳴らしました。今から 10 年以上も前の話です。これは今日においても深刻な問題であり、今回の暖冬に限らず近年の夏場の高温、台風や豪雨などの気候に関する極端な事象も温暖化と無関係とは思えません。想像するに、多くの人がそのことに気がついていてのに、それを認めてしまうと不都合な(温室効果ガスを減らすための生活にシフトする)ことになるので、気がつかないふりをしているほうが楽だったり、あるいは「まだ大丈夫、たぶん大丈夫」と根拠なく思うことで自分を安心させたり…。

温暖化はとても大きな問題なので、自分ひとりが頑張ってもどうしようもないという気持ちもわからなくもないのですが、でもそうやって誰も何もしなければ、ある意味「ミルクのプール」的な状況になってしまうかもしれません。まずは人間活動が温暖化にどのように関わっているのか自覚すること、それを踏まえて自分にできることは何か考え、ひとつずつ実行してみることが大切なのではないでしょうか。折り合いのつけ方は人それぞれでいいと思います。未来に向けて今の自分にできることをひとつずつ重ねていくことが求められていると思うのです。

(NPO 埼玉県キャンプ協会会員 中村 正雄)



今シーズン 2 月の志賀高原スキー場(長野県)。いつもより景色が茶色。

3. NPO 法人埼玉県キャンプ協会の令和 2 年度総会について

NPO 法人埼玉県キャンプ協会では、令和 2 年 3 月末に令和 2 年度の事業計画と予算計画を議案とする臨時社員総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために会場として予定していた武蔵浦和コミュニティセンターが休館となったため開催を中止いたしました。

今後は、状況を慎重に見極めながら 5 月の通常社員総会の準備を進めます。令和 2 年度事業計画と予算計画は、令和元年度事業報告と決算報告と併せて通常社員総会の議事といたします。

通常社員総会予定 5 月 30 日(土)

時間、場所については、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策等の社会状況を見極めた上で決定し、NPO 社員(正会員)の皆様にご連絡いたします。

NPO 法人埼玉県キャンプ協会

<http://saitama-camping.jp/>

E-mail saitama@camping.or.jp

〒336-0974

埼玉県さいたま市緑区大崎 3551

浦和大学 中島研究室

TEL 080-8729-0349

